

第21回とちぎりハビリテーションフォーラム

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

～今一度、これからの地域支援のあり方を考える～

担当部署：とちぎりハビリテーション実行委員会
問い合わせ先 E-mail：rehaforum@gmail.com

担当者：須藤 智宏

フォーラムの目的

精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう、医療、障害福祉・介護、社会参加、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築が求められている。栃木県の地域特性を踏まえた上で、どのように支援を展開していく必要があるのか、多職種・多分野との連携も含め、今一度考える機会とする。

実施概要

日時：2019年5月26日（日曜日）13:00～16:30

会場：とちぎ健康の森 生きがいつくりセンター 2F講堂

内容：第1部 特別講演

「生活臨床を学ぼう ～地域生活支援においてこれから出来ること～」

講師 伊勢田 堯 氏 元東京都立多摩総合精神保健福祉センター所長 医師

第2部 シンポジウム

「栃木県における地域支援のあり方を考える」

シンポジスト 遠藤 真史 氏 NPO法人那須フロンティア 作業療法士

蜂屋 英志 氏 医療法人社団緑会佐藤病院 看護師

毛呂 貴宏 氏 下野市障がい者相談支援センター

精神保健福祉士・相談支援専門員

藤井 達哉 氏 PeerStep栃木 精神保健福祉士・当事者

コーディネーター 野崎 智仁 氏 国際医療福祉大学 助教

NPO法人那須フロンティア 作業療法士

参加者数：118名

結果

第1部では、伊勢田堯氏から精神障害者の地域生活支援の実践方法を分かりやすく講演して頂き、「生活の在り方を手段として生活場面で治療する」といったメッセージは地域包括ケアシステムの構築や作業療法士の視座において深い学びとなった。

第2部では、シンポジストの実践報告と共に参加者とのディスカッションを行い、栃木県内の現状を理解すると共に「それぞれの職種が退院支援に想いはあるものの多職種が連携する難しさを感じている」といった意見を得ることができ、個人・施設・地域単位での連携課題があることがわかった。

今後の展開

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指す取り組みは、栃木県内においても多くの実践例があることがわかった。今後、作業療法士は地域に関心を向け、医療・福祉・当事者・行政との連携を図る役割が求められる。その第一歩として、私たちは身近な地域にどのような資源があるのか関心を持ち、地域の人たちと顔の見える関係作りを行っていくことが必要と考える。

